

説明概要	<u>平成28年度戦略的国際連携活動計画と受容性醸成活動</u> ・ 海外で開催される自動運転関連の議論の場への派遣計画を提案した。(欧州:TRA 4月、米国:AVS 7月およびTRB 1月など) ・ 国内開催のSIP-adus Workshopは、昨年と同じ東京国際交流会館で、11月15日～17日に開催予定。今年は、試乗会は開催しないが、海外からの専門家を対象とした研究テーマごとの成果報告を行う。 ・ 昨年の市民受容性醸成活動は、メディアミーティングやサイエンスアゴラの企画などを活発に行ったが、手作りのため一般市民向け周知の効果は充分でなかった。来年度は、専門業者を活用したい。 ・ 開かれた研究開発環境については、国際Workshopの際に研究開発の現場となっているテストコースを公開することを検討したい。 <u>国際標準化に向けた関係組織との連携の進め方</u> ・ 自動車技術会と日本自動車技術会合同の「自動運転標準化検討会」に内村副主査が出席し、SIP-adusにおける国際連携状況を説明した。 ・ 自動車技術会は、ITS分野の国際標準化を扱うISO TC204の取りまとめ組織となっており、自動車工業会より提示された「標準化の重点取り組み課題」に対して検討を開始している。 ・ SIP-adusの活動のうち、ダイナミックマップとHMIは、既にISOの国際標準化に関連して対応するWGとの連携を開始している。 ・ 自動車のISO活動には、TC22もありTC204と役割を分担している。
WGでの主な議論	<u>平成28年度戦略的国際連携活動計画</u> ・ 欧米の専門家から、SIP-adusの具体的研究開発の内容が(英語で)公表されていないので主張の意図がわかりにくいという指摘がある。英語での発信の強化とともに、国際Workshopでしっかり説明が必要。 ・ 一般市民向け理解促進は、ホームページの充実や資料の制作・配布に加えて、影響力の大きいマスメディアを通じた発信が有効である。メディア向けに丁寧に説明する機会を作ることが必要である。 <u>国際標準化に向けた関係組織との連携の進め方</u> ・ まず、自動車技術会・自動車工業会合同の「自動運転標準化検討会」と国際連携WGで相互に出席する体制を作ることが必要である。